

サステナブルな企業価値創造に向けたサステナビリティ関連データの効率的な収集と戦略的活用に関するワーキング・グループ（WG）の設置

2022年11月29日
非財務情報の開示指針研究会

1. 背景

（1）サステナビリティ関連データの収集・活用等の実態（現状と課題）

- 気候変動や人権など、多様なサステナビリティ課題が顕在化・複雑化する中、企業は、サステナビリティを経営の中核に置き、経営の強靱性・持続可能性を高めようとする取組を推進。
- サステナブルな企業価値創造に向けた経営・事業改革を実行していくにあたっては、KPIとなる各サステナビリティ関連データ（例：GHG排出量やサプライチェーン上の労働環境の状況など）を利用目的に応じた頻度（都度～毎月～四半期～毎年）で正確かつ効率的に把握し、戦略的に活用していくことが必要となる。
- しかし、実際には、経営戦略（進捗モニタリング、分析、意思決定など）や投資家等との対話に、財務データに加えて、サステナビリティ関連データを戦略的に活用できている企業は多くない。
- その原因は、①そもそも経営層のサステナビリティに対する認識・理解が必ずしも高くないことに加え、実務面において、②企業経営に必要なサステナビリティ関連データの特定の段階や、③データの収集・集計の段階において多くの課題が存在していることが挙げられる。特に、③については、
 - データの収集体制やフォーマット、マニュアルが未整備
 - バリューチェーン情報など、データ収集の範囲が広大（例：スコープ3 GHG排出量、労働環境の状況など）
 - エクセル等の手作業によるデータ収集が主流で自動化・デジタル化が遅れている
 - サステナビリティ情報の信頼性や保証体制が十分ではないなど、多くの課題が存在。このため、データの収集・集計に膨大な時間とコストがかかっていることに加え、集計に係る人的ミスも少なくない。

（2）サステナビリティ情報の開示要請の高まり

- 投資家サイドにおいても、特に長期アクティブ投資家は、企業価値の持続可能性を評価・分析するにあたって、財務情報に加えて、サステナビリティ情報を一層重要視。中には、企業価値に関連する複数のサステナビリティ関連データを使って、独自の定量モデルを用いて企業価値の評価・予測を行う投資家も存在。
- また、昨今の投資家から企業に対するサステナビリティ情報の開示要請の高まりを受け、各国・地域において、サステナビリティ情報の開示に関する基準の整備などが進展。とりわけ、投資家の投資判断などにおいて財務情報とサステナビリティ情報が一

体的に評価・分析される流れにある中、開示ルール等において両情報の同時開示を求める議論もあり、今後、企業は、サステナビリティ情報の迅速な開示への対応も求められることになる。

2. WG の設置目的

- 上記背景のとおり、企業価値に関連するサステナビリティ関連データを正確かつ効率的に収集し、経営戦略や対話のために戦略的に活用する必要性は、企業・投資家の双方において存在する。
- このため、必要なサステナビリティ関連データの収集・活用等に関して、課題の洗い出し・整理・方策の検討を行うためのワーキング・グループ（WG）を非財務情報の開示指針研究会の下部に新たに設置する。同 WG の名称は、「サステナブルな企業価値創造に向けたサステナビリティ関連データの効率的な収集と戦略的活用に関するワーキング・グループ」とする。
- 企業のサステナビリティ関連データの効率的な収集を促進することは、企業のサステナビリティ経営の基盤作りに資することに加えて、投資家等とのデータに基づいたより客観的かつ精緻な対話を可能とする。さらに、将来的には、各国・地域におけるサステナビリティ情報開示の義務化（同時開示など）等への動きにも対応可能となる。

3. WG の進め方・スケジュール

- 本 WG では、必要となるサステナビリティ関連データの収集・活用等について、
 - **Step 1**：まずは実態の把握を行いながら、課題の洗い出し・整理を行う。来春目処に報告書（中間整理）をとりまとめ予定。
 - **Step 2**：その後、中間整理を踏まえて、国内外での先進的な取組等を参考にしつつ、各課題に対する方策について検討。

4. メンバー

- 別紙のとおり。なお、必要に応じて、WG 座長の判断により、メンバーの追加可能。

5. その他

- 本 WG は、率直かつ自由な意見交換を確保するため、原則として、公開しない。
- 議事概要については、発言者を明示しない形で案を事務局において作成し、参加者の確認を受けた上で公開する。
- 事務局作成資料については、原則として公開するものとする。参加者の提供資料等、事務局作成資料以外の資料については、原則として非公開とする。ただし、機密情報等を削除した上で、資料提供者と相談の上、公開する場合もある。

(別紙)

サステナブルな企業価値創造に向けたサステナビリティ関連データの
効率的な収集と戦略的活用に関するワーキング・グループ (WG) 委員名簿

(敬称略・五十音順)

(座長)

北川 哲雄 青山学院大学 名誉教授 ・ 東京都立大学 特任教授

(委員)

達脇 恵子 有限責任監査法人トーマツ パートナー
富田 秀実 LRQA サステナビリティ株式会社 代表取締役
古川 隆 住友化学株式会社 レスポンシブルケア部 担当部長
三井 千絵 株式会社野村総合研究所 上級研究員
森 洋一 公認会計士
吉川 創祐 キリンホールディングス株式会社 GSV 戦略部 主査
渡邊 英雄 株式会社日立製作所 サステナビリティ推進本部 本部長

(オブザーバー)

金融庁
日本公認会計士協会
一般社団法人 ESG 情報開示研究会

(事務局)

経済産業省 経済産業政策局 企業会計室